

山があればいい、空があればいい。

甲斐市芦沢の山間にある里山「とうかさん 桃花源村」。山々に囲まれた斜面が続くこの地で、**浪**さんは土をいじり、季節の移ろいを感じ、大地とともに暮らす日々を送っています。「自然とともに生きている」。そう感じさせてくれるこの地は、多くのものを与えてくれるといいます。



インタビュー

舞踏家・俳優

田中 浪さん

Min Tanaka

プロフィール

1945年東京都八王子生まれ。モダンダンスを学んだ後、土方巽に私淑。1982年ミュンヘン演劇祭最優秀パフォーマンス賞受賞。農業と舞踊の同時実践のために1985年白州町（現・北杜市）で身体気象農場開設。1997年には敷島町（現・甲斐市）に移り住み桃花源舞踊団および農事組合法人桃花源を結成。2002年山田洋二監督「たそがれ清兵衛」で映画デビュー、日本アカデミー賞最優秀助演男優賞・新人俳優賞を受賞する。以後、映画・舞踊で活躍。2009年2月にはTOKIOの長瀬智也さんと共演のロード・ムービー「ハプンズ・ドア」公開予定。



探し求め、たどりついた、斜面だらけの地

20年以上前、国道20号線をバイクで走っていた時に印象に残った白州町（現在の北杜市）の山々。「このあたりで畑を借りて農業ができれば」。そんな思いをきっかけに、山梨での暮らしが始まりました。10年前には過疎で住み手がいなくなっていた甲斐市の山間の村を、自らの手で開墾し、道を直し、古民家を修復し、桃花源という名の村をつくりました。「ここは南のど真ん中に富士山、背後に茅ヶ岳があり、東西も山に囲まれた、まさに山に守られているところです。こちらの山もあっちの山も、なだらかな斜面がいりくんでいるのが好きなんです。斜面だらけのところに住みたかったです」

世界中の踊りは、地面を踏みしめることから始まっている

山を求め、空を求め、斜面を求めてたどりついた桃花源。今、その地に昔の段々畑をよみがえらせようと夢中で開墾しているそう。そんな土をいじっている時間が好きだといいます。「芸術もほとんどが土の上から始まっている。世界中の踊りも地面を踏みしめ

山で空が遮られているからこそ、山梨の空は美しい

現在もインドネシアで森を守る活動をし、世界各地で踊り、世界を旅し、世界とのつながりを感じている浪さんは、この地も世界に向かってつながっていくところだと語っています。

「僕たちはみんな同じ地球の空気を吸い、みんなつながって生きています。この地も山梨の一部ではあるけれど、地球全部とつながっているし、僕自身、山梨県とい

う意識で考えていません。山々に囲まれた山梨は、世界とつながっているというイメージを持ちにくいところかもしれませんが、世界はつながっているんです」

に、山で空が遮られているからです。空とか星は地球のつながりを感じるものです。それは空想世界になるわけで、僕たち人間はいろいろ空想しますから、山梨の空には空想がいっぱい詰まっているんじゃないですかね」

「山梨の空は特別ですよ。日本で最も美しい空と、最もきれいな星空があるところだと思います。それは幸せなこと

と、浪さんはいいます。ゆつくりと丁寧に紡ぎ出される浪さんの言葉。そこには大地を踏みしめ、空を抱き、自然とともに生きている人の強さと優しさが感じられました。

地球と一緒に生きている。ここにいて、日々そう感じられる

「ここは四季がものすごくはっきりしていて、一年がきちっと一回転しているんです。四季があることで最も深い感情の大地が生まれるんです。そんな四季のはっきりしているところも、この土地の好きなところですね。それに畑で春の芽吹きや夏のムンムンとした暑さ、冬と冬の色を変えていく秋の山々などを眺めていると、地球と一緒に生きている感覚をものすごく感じるんです。人間は地球という自然の真ただ中に生まれてきて、夢中で生きている他の生物と同じ空気の中に参加させてもらっているんです。若い頃は観念としてしか分からなかったんですが、今はそれを感じる毎日です」



「このデコボコカボチャは原種に近くて皮がとっても厚いので女の子が切れませんね。でも味は濃くておいしいんです」撮影や公演の合間には必ず戻って桃花源の仲間と農業をしていると笑う浪さん



住居は土地に残された廃屋を再生して使っている。ストーブも車のホイールを利用して作られている。浪さんの後ろにはいつも猫がついてくる。猫が4匹居て、黒猫の名前はタンゴ。